

野焼き等参加に当たっての注意事項

(一) 野焼き・輪地切り参加時の注意点

- (1) 無理をせず、安全第一で行動する。
 - ・ 野焼きは危険と隣り合わせの作業であることを常に意識する。
 - ・ 火をつけると風が起こる。又、風向きが急に変わることが良くある。
 - ・ カヤが伸びていて生い茂って乾燥している時の炎の熱さは尋常ではない。10m 以上離れていても熱くて我慢できず、軽い火傷や髪の毛が焼け焦げる時がある。
(必需品・・・厚手のタオル、手袋、帽子、マスク、防塵メガネ)
 - ・ 炎が大きな場合は無理をしない。
 - ・ 尾根の上では、下から炎がものすごい勢いで上がってくる時があるので特に注意。
傾斜地では炎の速度は毎分180mにもなる。(地形、風向きによってはもっと早くなる。)
 - ・ 危ないと感じたら周囲の人にも知らせ、とにかく避難する。
 - ・ 飛び火等の場合、ジェットシューター等で火が消せなくなったら消火活動を中止し、避難する。
 - ・ 危険度の高そうな場所には無理に近づかない。
- (2) 単独行動はしない、必ず地元やボランティアリーダーの指示に従う。
- (3) 防火帯の内側の原野には入らないようにする。
- (4) 地形及び風向きに注意し、緊急時にはどちらかに逃げるべきか常に考えておく。
- (5) 消火が手に負えないと判断したら安全第一に避難する。
- (6) ライター又はマッチ、2ℓ程度の予備の水の携行。(身を守る為の必需品)
- (7) 刈払機を始動する場合は、近くに人がいないか確認して始動する。
- (8) 仮払機作業中は、5m以内には近づかない。
- (9) 作業を中止したり移動する場合は必ず運転を停止するか刃の回転を止める。

(二) 野焼き要領

- (1) 防火帯の内側で高い所から下に防火帯を広げながら火を着けていく。
- (2) 先頭の方は地元火付け役の方の2-3m後に同行する。
(通常 先頭付近と最後尾はリーダー)
- (3) 輪地焼きをしていない防火帯では、火を防火帯の中央付近で消す。
- (4) 飛び火に注意しながら防火帯の外に火が行かないように消火する。
- (5) 消火の方法は、1ヶ所に留まらず3-4回火消し棒で叩いたら後ろの人に任せる。
- (6) 前後の人との距離は通常2-3mとするも状況に応じて広く又は狭くする。
- (7) 燃えている方ばかりではなく、反対側も飛び火していないか確認しながら行く。
- (8) 一人で消せない(消えない)場合は、3-4人で一緒に消す。

- (9) 火消し棒の使い方としては、頭上手前程度まで振り上げて消す。
- (10) 消すタイミングは、燃え上がっているときではなく少し落ち着いたときに消す。
- (11) 飛び火した場合は、大声で周囲の人に伝え数人が集中して同時に消す。
- (12) 傾斜地の飛び火は必ず下側（低い方）から消火する。
- (13) ジェットシュウターは火消し棒が可能なところでは、なるべく使用しない。
(非常時のために水を確保しておく。)
- (14) 最後尾の消火確認等については、必ず地元牧野の方をお願いする。
- (15) 無理をしている人が居ないか健康状態にも気をつける。

(三) 輪地切り作業の基本的要領

- (1) 刈った草の処理としては、後日輪地焼きをする場合はほとんど切ったままにしておいて、数日乾かした後、中央に集めて輪地焼きを行う。
- (2) 輪地焼きをしない場合(10月下旬以降)は、刈った草は山林側か野焼きをする野草地側かに寄せ、輪地切り線上(巾5m~10m)には燃えるもの(枯れ草等)をなくす。
おおむね燃えるものをなくせばよく、庭の掃除のようにきれいにする必要はない。
- (3) まだ残暑が厳しい時期なので、水分を多めにとり、熱中症に気をつけ無理をせず、自分の体力に合わせて作業をする。